

# Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス

ファームウェアリリース 3.2.x

**ORACLE**<sup>®</sup>

Part No: E40344-02  
2014 年 4 月

Copyright © 2013, 2014 Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

このソフトウェアまたは関連ドキュメントを、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供する場合は、次の通知が適用されます。

#### U.S. GOVERNMENT END USERS:

Oracle programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, delivered to U.S. Government end users are "commercial computer software" pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, use, duplication, disclosure, modification, and adaptation of the programs, including any operating system, integrated software, any programs installed on the hardware, and/or documentation, shall be subject to license terms and license restrictions applicable to the programs. No other rights are granted to the U.S. Government.

このソフトウェアもしくはハードウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアもしくはハードウェアは、危険が伴うアプリケーション(人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む)への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性(redundancy)、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアもしくはハードウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したことに起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

OracleおよびJavaはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

Intel, Intel Xeonは、Intel Corporationの商標または登録商標です。すべてのSPARCの商標はライセンスをもとに使用し、SPARC International, Inc.の商標または登録商標です。AMD, Opteron, AMDロゴ、AMD Opteronロゴは、Advanced Micro Devices, Inc.の商標または登録商標です。UNIXは、The Open Groupの登録商標です。

このソフトウェアまたはハードウェア、そしてドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても一切の責任を負いかねます。

# 目次

---

このドキュメントの使用方法 .....	5
<b>Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス .....</b>	<b>9</b>
システム情報および管理 .....	9
ホストおよびシステム制御 .....	10
Oracle ILOM の初期設定 .....	10
システム監視およびステータス .....	11
システムインベントリ .....	12
Oracle ILOM のメンテナンス .....	12
Oracle ILOM 構成管理 .....	12
Oracle ILOM ヘルプ .....	13



## このドキュメントの使用方法

---

この CLI リファレンスでは、Sun サーバーおよび Sun ブレードシャーシシステムをリモートで管理するために使用できる基本コマンドのリストを示します。

このガイドは、Oracle ILOM 3.2 ドキュメントライブラリのその他のガイドと一緒に使用してください。このガイドは、技術者、システム管理者、Oracle 認定サービスプロバイダ、およびシステムハードウェアの管理経験があるユーザーを対象としています。

- [5 ページの「関連ドキュメント」](#)
- [5 ページの「ドキュメントのフィードバック」](#)
- [6 ページの「製品のダウンロード」](#)
- [7 ページの「Oracle ILOM ファームウェアのバージョン番号スキーム」](#)
- [7 ページの「Oracle Support へのアクセス」](#)

## 関連ドキュメント

ドキュメント	リンク
■ Oracle ILOM 3.2 のドキュメントライブラリ	<a href="http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html">http://docs.oracle.com/cd/E37444_01/index.html</a>
■ Oracle ILOM のドキュメントライブラリ	<a href="http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs">http://www.oracle.com/goto/ILOM/docs</a>
■ Oracle Hardware Management Pack ライブラリ	
■ x86 サーバー用 Sun Installation Assistant	
■ サードパーティーシステム管理ドキュメント	
■ サーバー診断ドキュメント	
■ すべての Oracle 製品	<a href="http://www.oracle.com/documentation">http://www.oracle.com/documentation</a>

注: 使用している Sun サーバーのプラットフォームに固有の Oracle ILOM ドキュメントを見つけるには、使用しているサーバーに付属している管理ガイドの Oracle ILOM のセクションを参照してください。

---

## ドキュメントのフィードバック

このドキュメントについてのフィードバックをお寄せください:

<http://www.oracle.com/goto/docfeedback>

## 製品のダウンロード

各 Sun サーバーまたは Sun ブレードシャーシシステムの Oracle ILOM ファームウェアの更新は、My Oracle Support (MOS) Web サイトからダウンロードできるスタンドアロンのソフトウェア更新プログラムによって入手できます。このようなソフトウェア更新プログラムを MOS Web サイトからダウンロードするには、次の手順を参照してください。

### ▼ 製品のソフトウェアおよびファームウェアのダウンロード

1. <http://support.oracle.com> にアクセスします。
2. My Oracle Support にサインインします。
3. ページの上部にある「パッチと更新版」タブをクリックします。
4. 「パッチ検索」パネルで、「製品またはファミリ (拡張)」をクリックします。
5. 「対象製品」リストボックスで、製品名の全体または一部を入力し、一致する製品のリストがリストボックスに表示されたら該当する製品名を選択します。  
製品名の例: Sun Fire X4470 M2 Server または Sun Enterprise SPARC T5120。
6. 「リリース」リストボックスで次のようにします。
  - a. 「リリース」リストボックスで下矢印をクリックして、一致する製品フォルダのリストを表示します。  
1 つまたは複数の製品フォルダのアイコンのリストが表示されます。
  - b. 目的のソフトウェアリリースの横にあるチェックボックスを選択します。  
例: X4470 M2 SW 1.4 または Sun SPARC Enterprise T5120。
7. 「検索」をクリックします。  
「パッチ検索結果」画面が表示され、パッチ名のリストと説明が示されます。
8. 「パッチ検索結果」画面で、目的の「パッチ名」を選択します。
9. 「パッチ名」の選択で、次のいずれかのアクションをクリックします。
  - README - 選択したパッチの Readme ファイルを開きます。
  - 計画に追加 - 選択したパッチを新しい計画または既存の計画に追加します。
  - ダウンロード - 選択したパッチをダウンロードします。

## Oracle ILOM ファームウェアのバージョン番号スキーム

Oracle ILOM では、使用しているサーバーまたはシャーシモニタリングモジュール (CMM) で実行しているファームウェアバージョンを識別しやすいファームウェアバージョンの番号スキームを使用しています。この番号方式では、5 つのフィールドがある文字列を使用しています。たとえば、a.b.c.d.e となり、ここでは:

- a - Oracle ILOM のメジャーバージョンを示します。
- b - Oracle ILOM のマイナーバージョンを示します。
- c - Oracle ILOM の更新バージョンを示します。
- d - Oracle ILOM のマイクロバージョンを示します。マイクロバージョンは、プラットフォームまたはプラットフォームのグループ単位で管理されます。詳細は、使用しているプラットフォームのプロダクトノートを参照してください。
- e - Oracle ILOM のナノバージョンを示します。ナノバージョンは、マイクロバージョンの増分反復です。

たとえば、Oracle ILOM 3.2.2.1.a の意味は、次のとおりです:

- Oracle ILOM 3 はメジャーバージョンです
- Oracle ILOM 3.2 はマイナーバージョンです
- Oracle ILOM 3.2.2 は 2 つ目の更新バージョンです
- Oracle ILOM 3.2.2.1 はマイクロバージョンです
- Oracle ILOM 3.2.2.1.a は 3.2.2.1 のナノバージョンです

---

ヒント - 使用している Sun サーバーまたは CMM にインストールされている Oracle ILOM ファームウェアバージョンを確認するには、Web インタフェースで「System Information」>「Firmware」の順にクリックするか、コマンド行インタフェースで `version` と入力します。

---

## Oracle Support へのアクセス

Oracle のお客様は、My Oracle Support を通じて電子サポートにアクセスできます。詳細は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc{ENT:#x0026}id=info> を参照してください。聴覚に障害をお持ちの場合は、<http://www.oracle.com/pls/topic/lookup?ctx=acc{ENT:#x0026}id=trs> を参照してください。



# Oracle ILOM CLI コマンド用クイックリファレンス

---

このセクションでは、一般的な Oracle ILOM 3.2.x CLI コマンドについて説明します。

このセクションでは、次のコマンドのカテゴリについて説明します:

- 9 ページの「システム情報および管理」
- 10 ページの「ホストおよびシステム制御」
- 10 ページの「Oracle ILOM の初期設定」
- 11 ページの「システム監視およびステータス」
- 12 ページの「システムインベントリ」
- 12 ページの「Oracle ILOM のメンテナンス」
- 12 ページの「Oracle ILOM 構成管理」
- 13 ページの「Oracle ILOM ヘルプ」

## システム情報および管理

表 1 システム情報および管理コマンド

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM バージョンを表示する	<code>version</code>
システム情報を表示する	<code>show /System model part_number serial_number</code>
Show x86 BIOS バージョンを表示する (レガシー BIOS プラットフォーム)	<code>show /System/BIOS version</code>
Show x86 BIOS バージョンを表示する (UEFI BIOS プラットフォーム)	<code>show /System/Firmware/Other_Firmware/ Firmware_1 version</code>
SPARC システムファームウェアのバージョンを表示する	<code>show /System sys_fw_version</code>
SP IP アドレスを表示する	<code>show /System ilom_address</code>
SP MAC アドレスを表示する	<code>show /System ilom_mac_address</code>
ホスト MAC アドレスを表示する	<code>show /System host_primary_mac_address</code>

タスク	CLI コマンド
「Locator」LED をオンにする	<code>set /System locator_indicator=on</code>
「Locator」LED をオフにする	<code>set /System locator_indicator=off</code>

## ホストおよびシステム制御

表 2 ホストおよびシステム制御コマンド

タスク	CLI コマンド
サーバーの電源を入れる	<code>start /System</code>
サーバーの電源を切る	<code>stop [-force] /System</code>
サーバーの電源を再投入する	<code>reset /System</code>
ホストコンソールストリームを Oracle ILOM にリダイレクトする	<code>start /HOST/console</code>
次回のブート時に PXE ブートを強制的に実行する (x86 のみ)	<code>set /HOST boot_device=pxe</code>
次回のブート時に CD-ROM または DVD で強制的にブートする (x86 のみ)	<code>set /HOST boot_device=cdrom</code>
次回のブートに x86 診断の実行を有効にする	<code>set /HOST/diag state=enabled</code>
システムの電源投入時の SPARC 診断の実行を有効にする	<code>set /HOST/diag trigger=power-on-reset mode=normal</code>

## Oracle ILOM の初期設定

表 3 Oracle ILOM の初期設定コマンド

タスク	CLI コマンド
ネットワーク構成を表示する	<code>show /SP/network</code>
静的 IPv4 アドレスを構成する	<code>set /SP/network pendingipdiscovery=static pendingipaddress=<i>address</i> pendingipnetmask=<i>netmask</i> pendingipgateway=<i>address</i> commitpending=true</code>
静的 IPv6 アドレスを構成する	<code>set /SP/network/ipv6 state=enabled pending_static _ipaddress=<i>ipv6address</i>  set /SP/network commitpending=true</code>

タスク	CLI コマンド
DHCP を有効にする	<code>set /SP/network pendingipdiscovery=dynamic commitpending=true</code>
Oracle ILOM ホスト名を設定する	<code>set /SP hostname=<i>hostname</i></code>
システム識別子を設定する	<code>set /SP system_identifier=<i>identifier</i></code>
すべての権限を持つユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/<i>newusername</i> role=aucro [password=<i>password</i>]</code>
ホストオペレータ権限を持つユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/<i>newusername</i> role=cro [password=<i>password</i>]</code>
読み取り専用ユーザーアカウントを作成する	<code>create /SP/users/<i>newusername</i> role=o [password=<i>password</i>]</code>
ユーザーアカウントを削除する	<code>delete /SP/users/<i>username</i></code>
DHCP から取得した DNS サーバーをオーバーライドする	<code>set /SP/clients/dns auto_dns=disabled nameserver=<i>nameserver1</i>,<i>nameserver2</i> searchpath=<i>searchpath1</i>,<i>searchpath2</i></code>
Oracle ILOM の日時を設定する	<code>set /SP/clock datetime=<i>MMDDhhmmYYYY.ss</i></code>
NTP サーバーを構成する	<code>set /SP/clients/ntp/server/1 address=<i>address</i>  set /SP/clock usentpserver=enabled</code>
外部シリアルポートの速度を変更する	<code>set /SP/serial/external pendingsspeed=9600 19200  38400 57600 115200 commitpending=true</code>

## システム監視およびステータス

表 4 システム監視およびステータスコマンド

タスク	CLI コマンド
システム全体の状態を確認する	<code>show /System health</code>
すべての未解決のハードウェア問題を表示する	<code>show /System/Open_Problems</code>
Oracle ILOM システムログを表示する	<code>show /System/Logs/list</code>
冷却サマリー情報を表示する	<code>show /System/Cooling</code>
システムの実際の消費電力を表示する	<code>show /System actual_power_consumption</code>
Oracle ILOM イベントログを表示する	<code>show /SP/logs/event/list</code>

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM 監査ログを表示する	<code>show /SP/logs/audit/list</code>
SNMPトラップの宛先を構成する	<code>set /SP/alertmgmt/rules/1 type=snmptrap snmp _version=1 level=minor destination=<i>ipaddress</i> destination_port=<i>port</i> community_or _username=<i>community</i></code>

## システムインベントリ

表 5 システムインベントリコマンド

タスク	CLI コマンド
すべての DIMM に関する情報を表示する	<code>show -level all -output table /System/Memory/DIMMs</code>
すべての CPU に関する情報を表示する	<code>show -level all -output table /System/Processors/CPU</code>
すべての電源装置に関する情報を表示する	<code>show -level all -output table /System/Power/Power_Supplies</code>
すべてのハードディスクに関する情報を表示する	<code>show -level all -output table /System/Storage/Disks</code>

## Oracle ILOM のメンテナンス

表 6 Oracle ILOM のメンテナンスコマンド

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM ファームウェアを更新する	<code>load -source <i>URI</i> /SP/firmware</code>
Oracle ILOM SP をリセットする	<code>reset /SP</code>

## Oracle ILOM 構成管理

表 7 Oracle ILOM 構成管理

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM の構成を出荷時のデフォルトにリセットする	<code>set /SP reset_to_defaults=all</code>

---

タスク	CLI コマンド
Oracle ILOM 構成をファイルにバックアップする	<code>dump -destination <i>URI</i> /SP/config</code>
ファイルから Oracle ILOM の構成を復元する	<code>load -source <i>URI</i> /SP/config</code>

---

## Oracle ILOM ヘルプ

表 8 Oracle ILOM ヘルプコマンド

---

タスク	CLI コマンド
CLI の任意の部分でシステムのすべての CLI ターゲットを表示する	<code>help targets</code>
ターゲットまたはプロパティのヘルプを表示する	<code>help <i>target property</i></code>

---

